

平成 30 年度全国高校総合体育大会バドミントン競技和歌山県予選会

於 和歌山県立新宮高等学校

6月2日(土) 男子団体1回戦 対 向陽高等学校 2-3

6月3日(日) 男子ダブルス

井谷悠人(3B)・吉田伊吹(3D) **ベスト32**

2回戦 対 那賀高校 2-0〔21-3/21-7/-〕

3回戦 対 耐久高校 0-2〔6-21/10-21/-〕

6月3~5日 男子シングルス

(日~火) 吉田伊吹(3D) **ベスト32**

2回戦 対 新宮高校 2-0〔21-9/21-15/-〕

3回戦 対 粉河高校 2-0〔21-13/21-12/-〕

4回戦 対 那賀高校 0-2〔15-21/14-21/-〕

井谷悠人(3B) **ベスト64**

2回戦 対 紀央館高校 2-0〔21-15/21-14/-〕

3回戦 対 那賀高校 0-2〔9-21/6-21/-〕



6月5日。僕たち3人の最後の総体予選会が終わりました。

これまでの大会で力を出し切ることができず、悔いばかり残してきた中での最後の総体予選会でした。

大会のトーナメントが出た上での目標は、ダブルスベスト16・シングルスベスト16…でも、この数値目標も大切でしたが、それ以上に全力で自分たちの持っている力を出し切り、最後は笑って終える…これ以外考えていませんでした。

初日の団体戦は向陽高校と対戦し、2-2の状態、勝利をかけたシングルスが僕にまわってきました。ここで勝てば、チームとしての勝利を上げられる…みんなのために勝たなければと思いました。何より、ここまで競ることができているのは、後輩が僕たち3年生のために頑張ってくれてくれた2つの勝利があるからこそ…その想いに応えなければと思っていました。1-1で迎えたファイナルセット、相手の勢いに押されないよう、1ラリー1ラリー丁寧かつ確実なラリーを心がけました。しかし、少しずつ点数が離れていく中で、ゲームの流れを引き戻すことができず、敗れてしまい、団体戦は2-3で敗退してしまいました。

2日目のダブルス戦…3回戦で対戦する耐久高校に勝たないと、目標であるベスト16に入れないことが分かっていました。対戦相手は僕たちよりも経験は格段に上のペア。でも、最初から諦める気持ちになてなれなかったし、1番時間をかけて練習してきたダブルス、力がついてきた自分たちだったら、十分対戦相手ともラリーができる…何より僕たちの勝利を信じてくれている人たちのために、3年生の最後の意地を見せようと試合に向かいました。でも、決めたい・1点を取りたい…そう思えば思うほど、足が動かなくなり、あっという間に試合は終わってしまいました。

シングルスが残っている…。このまま帰る訳にはいかないと、何度も自分に言い聞かせました。

3日目のシングルス、この日に敗退してしまった3年の井谷・多禰の2人は、全力を尽くしていたと思います。2人の最後まで諦めない姿に、僕は力をもらいました。最終日まで勝ち上がった責任を果たそうというより、明日でやりたくても本気でやれる公式戦が終わると考えたら、少しでも長くコートに立っていたい・楽しまないともったいないという気持ちで一杯でした。自分自身に負けない気持ちだけを考え、最終日を迎えました。

キャプテンとしての最後の姿を後輩に見せよう、昨日敗退した3年2人のためにも、僕の全てを出し切ろうと考え、コートに立ちました。しかし、ミスが重なってくる中、自分に苛立ち、少しずつコントロールできなくなっていきました。結局、最後の最後まで自分の弱さが出て、今までと同じことを繰り返してしまいました。何一つ結果も残せない、胸を張ってやり切った・悔いはないなんて言える状態ではありませんでした。1年生の新人大会・2年生の近畿大会予選など、節目の大切な大会で、普段の力を発揮できず、後一步のところで何回悔しい思いをし続けてきたのか、これまで僕たちを支えてくれた多くの人たちに何も返せていない、キャプテンとしての姿を何も見せられなかった…自分が惨めで、情けなくて、悔しくて仕方なかったです。

総体予選会が終わりました。僕たち3年3人は引退まで、まだもう少し時間があります。次の世代にチームを任せることと、敗北から得たもの…まだ全てを理解できている訳ではありませんが、僕なりに後輩たちに伝えていきたいと思います。

今、高校でのクラブ生活を振り返ると、これ程までに1つのスポーツに毎日熱くなれたことは初めてでした。ここまで熱中できたのは、井谷悠人・多禰茉奈都をはじめ、バドミントンの楽しさを教えてくれた先輩・両親や地域の方々・先生などがいてくれたからだと思います。僕に素晴らしい時間・素晴らしい出会いを与えてくれました。最後、勝てなかった悔しさが消えることはありませんが、充実した時間を与えてくれた熊野高校バドミントン部には、本当に感謝しています。今までありがとうございました。



バドミントン部 キャプテン 吉田 伊吹